

ベトナムの農業の発展に 力を注ぐ教師と学生たち

— 学びたい日本の優れた農業技術 —

ベトナム視察旅行記 (その2)

内 山 雄 平

先回の八〇号ではベトナムの女性と社会生活についてふれた。今回は、ベトナム視察旅行の目的であるドイモイ政策（経済社会の刷新）下「農業・農村と農業教育の事情」について報告したい。

一、米生産農家と野菜生産農家を訪ねて

私たちは、ホーチミン市（旧サイゴン）から三〇km離れた、サイゴン川支流にあるクチ県ビンメイ村（ムンデルタ地帯）の稲作農家と野菜農家を訪れた。その稲作農家は、三haの水田を二人の労働力の経営（家族は五人）です。一ha当たり五tを生産し、三期作なので一五tの生産量である（玄米換算で一〇a当たり二五〇kg年間七五〇kg。わが国は約五三〇kg）。

ベトナムでは収量の高い米の品種改良がすすめられ、年々収穫量が伸びている。また、減農薬で安全な食料づくりにも取り組み、その農家でも病気が発生したときだけ散布し、農薬に頼らないで病害虫を防除する工夫を試みていた。

米は市場をとおして販売され、価格はキロ一七〇〇（二〇〇〇ドン）（約三三〜一六円）です。市販のミネラルウォーターが五〇〇c.c.で三〇〇〇〜六〇〇〇ドン

ですから、米はミネラルウォーターの半分の値段となります。日本とは物価水準が違うので単純には比較できないが、「一番高いのは電気製品、一番安いのは米」といわれるベトナムでは、米生産農家にとっては大変厳しい。だから、トラクター（日本製）などの農業機械、農薬・肥料などの生産コスト高に比べ、米は安いので家畜を飼育したり、農閑期は塩製造工場に勤めている。

一方、訪れた野菜農家では奥さんや子どもたち家族が庭先の日陰で、とってきたばかりの野菜を市場に出す出荷調整をしていた。野菜の種類はコマツナ、レタス、カラスナなど、一年一〇作の輪作栽培（一作は約三〇日の栽培期間）です。畑の周りは水路を通していて、いつでも灌水できる状態にある。農薬の使用は、予防措置として一作に二回散布し、病害虫の発生時は、役所の人が指導してくれ、リン系の農薬は使用しないという。

マイクロバスの車中からみると、デルタ地帯の広々とした一面の水田には、青々とした苗が育ち、ところどころに、数頭の水牛が寝そべって実にのんびりした農村風景がひろがる。水牛は、水田の耕耘に役畜とし

て使用され、たまに見かけるトラクターは、日本の昭和二〇年代に見かけた耕耘機（発動機）である。他にも水牛は、農村の子どもの非行防止に大変役に立っている。ベトナムのほとんどの学校は二部制のため、半日は自由となる。農村の子どもは、家庭には両親がおり、水牛を引き連れ面倒を見ているので、都会の子どもと比べて非行は少ないという。都会の子どもには共稼ぎの家庭が多く、一日留守となるため、非行に走り易いからだ。

二、高等農業教育機関を訪ねて

(一) 熱意溢れる教師たち―農業専門学校―

学校は、ホーチミン市内の中心部に位置し、二年制の職業専門学校である注一。農村社会の発展に貢献するため、実践的な農業技術者を育成することを目的に、ベトナムが解放された翌年一九七六年に設立された。一三の学部があり、学生は一八才から四〇才まで約二五〇〇人が学び、男五五%、女四五%の比率である（〇三年度）。

微笑みをたたえたホーチミンの肖像画が正面に飾られた会議室で、校長以下一〇人の先生方が私たち訪問

団を待ち受けてくれていた。テーブルにはミネラルウ

ォーターや盛りだくさんのパイヤが用意されていた。

校長先生が、「皆さんを心から歓迎します。せっかく遠くからきたお客様です。優秀な技術者を留意しました。何でも聞いて下さい」と話されたので、さっそく「この地域の課題は？」の質問をすると、「一番は野菜など栽培品種が不足している。短い期間によく栽培できるものを研究中です」と答えた。以下、訪問団と先生たちとの応答の主なものをあげると、(回答は○印)

〈農業実験実習の授業はどのようにやっているか〉

○実習は実践的に出来る人を育てる上で大切にしている。授業は理論と実習とが半々に分かれていて、試験場もある。実験場が二〇㌔離れているので苦労している。実験場での実習は夏休みを利用してしている。

〈施設設備についてはどうか〉

○実験器具が不足し、一・二部制で使用している。農場はひろいが、充実はしていない。

〈生徒の通学範囲はどうか〉

○ホーチミン市から三〇〇㌔以内、市内では、寄宿者の需要に追いつかない。

〈生徒の進路について〉

○進路先として農業技術を教える教育施設はあるが、ほとんどが農業に就いている。

〈ドイモイによる教育政策の変化はあるか〉

○とても良い質問だと前置きをして、善し悪しはあるが、ほとんど良い面が変わってきた。それは、

①考え方が変わった・農民はドイモイ政策以前の合作社(＝社会主義大規模化による集団農業)のもとでは個性を発揮出来なかったが、今は個人の力を発揮させるように指導している。

②誰のために働くか・個人による経営を認め、家族農業へと転換したので、具体的な目標を掲げてやれるようになり、活気が出てきた。

〈日本との交流についてどう考えているか〉

○協力してもらいたい。日本人の技術は世界的にも優れているので、その技術を教えてもらいたい。参考資料等の提供をして欲しい。また、使わなくなった農業機械の中古品を譲って欲しい。

これらの話を受けて訪問団は、逆に専門学校の先生方からの質問を受けることになった。

〈農家を視察しての感想は〉

○ 稲作は機械化をすすめ、省力化による労力を活用して他の作物の導入を図ったかどうか。野菜は、種類の多様化、土の条件整備、水の管理が課題だと思ふ。

△ 清潔な野菜づくりには力を注いでいる。資料があったら送ってくれ。農薬をどう使ったらよいか。病気の発生を防ぐ方策は△

○ 輪作のすすめ、田畑輪換を図って土づくりをすすめる。

△ 農薬を使わないで野菜などにつく害虫の駆除は具体的にどうしているか△

○ 農薬使用の基準をつくり、低農薬農業をすすめている。

△ 収穫後の保存方法は、農薬を使っているか、具体的な農薬の名称は△

○ 保存のための農薬は使用せず。収穫物は低温処理で保存・流通させている。

△ 畜産は、豚・牛・水牛・乳牛の飼育をすすめ、品種改良に力を入れ指導している。ホーチミン市では五年前と比較して乳牛は四万頭増加したが、二〇%の需要しか満たしていない。日本で一番多い家畜は何か△

○ 鶏・豚・牛の順だ。

当初、約一時間二〇分ほどの予定であったが、専門学校側からの質問を受けたら、二時間を超える交流となった。特に女性教師による質問が多かった。農産物に対する農薬使用や保存方法については、これからの「清潔な野菜」作りなどの研究に生かせるのではないかと、期待しているようにも見えた。こちらの答えを一言ももらすまいと、真剣なまなざしで聞く態度がとても印象に残った。日本の優秀な農業技術の援助を期待していた。

現在、ベトナムでは生産された農産物を、いかに新鮮なまま消費者に出荷できるか等収穫後の保存方法が課題のようだった。

(二) 農業発展のために燃える学生たち

— 国立ハノイ農業大学 —

ベトナムの農業大学ではどんな研究をし、ここで学ぶ学生たちの農業に対する考えや生活の様子を知るため、首都ハノイにあるハノイ農業大学を訪れた。農学科副主任が大学の概要を説明してくれた。創立後五〇年経ち、農学に関するすべての研究分野の学科の他、芸術・文化の学科も設置している。これまで四万人の

農業専門家を輩出し、ベトナム農業の発展に大きく貢献してきた。大学は、政府から「英雄勲章」が授与されるだろうと語った。なお、日本からのOECDによる大学への援助もされている。注一

夏休み中にもかかわらず一八人(都会出身四、農村出身二二、中間都市二)の学生たちが集まってくれた。

視察団は一間一答形式で、それぞれの学生たちの考えや思いを聞いた。

△この大学に入学した動機は△

○将来、微生物の研究をしたいと思っていた。医学か農学か、どの分野で研究したらよいか迷っていたとき、父から農村に帰って農民のために役立つ研究をといわれ、この大学を選んだ。

○中学生の時、水田や畑で苦勞しながら働く両親の姿をみて、どうしたら楽な農業経営を営めるかを研究するために入学した。

△学生生活で楽しいことは△

○現場実習で学ぶことだ。新しいことを学ぶことが楽しい。一日の学習時間は、午前四時間、午後二～三時間、夜は二～三時間(七時～二時)です。

△ドイモイ政策下の研究は△

○学生の要望に応え、以前は政府の指示に従って教えなかつた分野ーバイオテクノロジー、環境、生態、農業のIT化(情報技術)などを研究できるようになった。農村から派遣された人の研修のため、専門的な教育を実施するようになった。

△戦争と平和をどう考えるか△

○戦争に使うお金があれば、農業が発展するための費用に使って欲しい。鉄砲より話し合いでの解決が大事だ。

△将来の進路はどう考えているか△

○もともと農業のことを勉強して修士課程にも進学し、必要なら外国の大学にも留学したい。そして田舎に帰って、貧しい農村を豊かにできるよう貢献したい。

学生たちは、こちらに質問には素直に答えてくれ、一語一句もみらず全神経を集中するように、私たちの話に耳を傾けていた。学生たちは、ベトナムの農業の現実を熟知しており、日本の技術の高さもよく理解していた。

何よりも私が感動したのは、どの学生も大学で何を学ぶかを明確にしていることである。これからのベト

ナムの農業の発展のため、学問に対して燃えるような情熱が伝わってきた。

ベトナムは、一九七五年の南ベトナム解放以後も一四年間にわたって、中国やカンボジアとの戦争が続き、ようやく平和な社会を取り戻して一五年しか経ていない。ホーチミン市やハノイ市郊外の農村地帯では、都市と農村を結ぶ道路の拡張工事が、ようやく着手され始めていた。水田の耕地整理など農業の基盤整備がほとんどできていなく、農業の機械化も農産物の出荷・市場への配送等流通のしくみも遅れている。

一九八六年に提唱されたドイモイ政策によって、これまでの集団農業を解体し、合作社の管理下にあった農地を農家に配分、実質的には私的所有権を農家に与えるなど、農民の生産意欲を高める政策が次々と出されている。

現在のベトナム農業の抱えている諸課題を克服するために、農業専門学校の研究心旺盛な教師に教わる学生たちや、高度な農業技術や豊かな教養を身につけている大学生たちの存在を知って頼もしく思った。やがて、このような人たちが農村に入ることによって、ベトナムの農業は飛躍的に発展するまらがないと思う。

(注一) ベトナムの教育制度について

小学校五年・中学校四年の義務教育、高校は三年でその上に専門学校二年、または大学四年となっている。学校教育を優先させる政策をとり、授業料は小学校無料、中・高校有料、大学の教員養成系は無料。日本のような大学間格差はない。求める職種を養成する大学によって入学の難易さがり、例えば教員系は八〇人に一人、工科系一〇〇人に一人の入学率である。

(注二) OECDによるベトナムへの日本の海外援助
ハノイ農業大学の施設・設備の他、道路の整備(外資で造った道路の通行料は40km毎に二〇〇円)、全国で二〇〇校小学校の建築、火力発電所(石炭)の建設などに当てられている。

(うちやまゆうへい・研究所所員)

訂正 先々号(80号) 34頁下段12行目の
の俳句は、身しに入いむやしゲルニカいのい魁い吾いになし、
です。お詫びして訂正いたします。(吉田)